

2023年10月10日

東京都知事 小池百合子 様

滝山病院問題を考える市民と議員の連絡会議

### 滝山病院問題に関する要望書

私たちは「滝山病院問題を考える議員と市民の連絡会議」と申します。滝山病院において発生した、入院患者に対する虐待・暴行事件に心を痛める自治体議員、国会議員、市民団体、個人によって結成された連絡会議です。現在、280の団体・個人が加入しております。

東京都は本年5月以降、一般社団法人東京精神保健福祉士協会の協力の下、滝山病院の入院患者の転退院の意向調査と支援を行っていますが、9月末時点において転退院を希望した約35名のうち転院をしたのは未だ5名のみです。

私たちとしては、患者自ら声をあげることが難しいことから、外部からの積極的な支援が重要であるにも関わらず、未だ遅々として進まない状況を非常に危惧しています。つきましては、東京都に対して以下の通り要望します。

### 要望内容

1. 転院・退院（地域定着支援含む）を希望する患者のうち、未だ滝山病院に留まる患者に対しては、早急に、本人の希望に沿うよう、現在協力を要請している東京精神保健福祉士協会のみならず他の地域福祉関係者からの協力も得ながら転退院を進めることを求めます。
2. 転院・退院（地域定着支援含む）支援については、地域事業者等から各入院患者への相談を積極的に病院が受け入れる等、開かれた支援体制を構築するよう求めます。特に、すでに具体的に転院・退院（地域定着支援含む）を希望される方については、地域の福祉関係者や司法関係者の側からの面会要請に対しては、各患者の意思に反しない限りこれに応じるよう滝山病院に対して指導するよう求めます。
3. 滝山病院の暴行・虐待事件について、滝山病院自身による内部調査に頼ることなく、東京都として、独自に真相究明を徹底し再発防止に務めるよう強く求めます。
4. 東京都が行う転退院意向調査対象者のうち、転退院者数（死亡含む）を適宜公開するよう求めます。
5. 転退院意向調査にあたり、転退院希望／入院継続希望といった「線引き」が安易に行われる危険性についても、私たちは危惧します。「転退院すれば医療費が滝山病院よりも増えてしまう」「家族にさらなる負担をかけるわけにいかない」などの理由によって意向が歪められたり、意思表示自体が断念されたりすることがないように、残された入院患者に対して十分かつ包括的な支援や手当が施されるよう、強く求めます。

以上